



活水高等学校

1学年

「活ける水キャリアデザインプログラム」

活水高等学校は明治12年の創立以来、一人ひとりの女性が「幸せ」に生きるための教育に取り組んできました。この間、社会は激変。女性の社会的地位は大きく向上し、さらなる活躍が期待されている現代社会においては、主体的にキャリアを描き出す「自律的な選択」が不可欠です。活水女子大学とも連携し、女子校ならではのキャリアデザインを通して、将来の活躍の場を手練り寄せ、社会で輝き続ける力を育みます。

自分が「幸せ」になるために深く学んだことを活用し、周囲の人や社会の「幸せ」実現に貢献できる女性を目指す

学校基本情報

- 所在地** 〒852-8566 長崎市宝栄町15-11
- URL** <https://www.kwassui.ac.jp/chuko/>
- 交通** 長崎電気軌道「大学病院」停留所より徒歩10分、またはJR長崎本線「浦上」駅より徒歩10分（ほか）
- 学校長** 大岩 厚
- 生徒数** 女子355名



自らが「幸せ」になるために学んだことを活用し、周りの人や社会の「幸せ」のために貢献できる女性

醸成する
資質・能力

主体性
協働能力

課題解
決能力

創造力
発信力

コミュニ
ケーション
能力

メディア
リテラシー

III 年次	<p>テーマ わたし、輝く。ともに、輝く。 ～よりよい社会の実現にどのように貢献するか考える～</p> <p>自らのキャリアを考える 社会貢献について考える ・I & II年での学びと自らの進路を踏まえたテーマによる個人研究 ★探究活動発表会(全科・コース、全学年) ★卒業論文作成 ★志望理由書作成</p>	活水学院
II 年次	<p>テーマ 地域を知る 世界を知る ～より広い視野から、自分の生き方を考える～</p> <p>自らの興味・関心を地域課題・SDGsに結びつける 現場訪問、体験活動、交流活動を行う ・I年次に行ったグループ探究活動をベースにした個人活動またはグループ活動 ・長崎市内や県内の課題について考える ・現地取材(フィールドワーク)、インタビュー ・地元企業訪問、体験(職業と職場についての調査) ・活水女子大学関係学科との協働企画 ・設定したテーマについての調査・研究および考察 ★レポート作成 ★聞き書き集作成 ★外部コンテストへの参加 ★探究活動発表会(全科・コース合同)</p>	キャリア 教育センター 活水 女子大学 …… キャリア教育プログラムセンター
I 年次	<p>テーマ 自分を知る 仲間を知る ～自分の特性を知って、私の生き方を考える～</p> <p>自分の興味・関心を知る 他者の話を聴く</p> <p>単元1 オリエンテーションと「自己理解」 ・マインドマップを描く</p> <p>単元2 他者理解：同級生インタビュー ・インタビューを行い、まとめる 聞き書き：身近な働く人に学ぶ ・構成等の手法を学ぶ</p> <p>単元3 地域に目を向けよう：グループプレゼンテーション ・探究課題を設定し、調査・研究および考察する ・プレゼンテーションを作成する ・探究発表会を実施する</p> <p>★外部コンテストへの参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語学科 ●日本文化学科 ●音楽学科 ●食生活健康学科 ●生活デザイン学科 ●子ども学科 ●看護学科

探究課題	女性	長崎	キリスト教	健康・福祉	グローバル
活水中学校	長崎県 長崎市 民間企業 生命(いのち)、平和・人権、福祉・ボランティア 県内高校 海外交流校 他関係団体				

活水高等学校は、令和3年4月から「活ける水キャリアデザインプログラム」と呼称する「総合的な探究の時間」をスタートさせました。プログラムの策定に際しては生徒も教員も楽しく、成長を共に喜べる探究活動であるということを重視したといえます。地元・長崎県や、活水学院系列の活水女子大学と連携した取り組みが大きな特色です。

活水高校における総合的な探究の時間を総括する副校長・野田 定延先生と進路指導部長・古田 雄介先生に最近一年間の成果と今後の展望をおうかがいました。



副校長 野田 定延 先生
進路指導部長 古田 雄介 先生

大学・企業、地域社会と密接連携する「探究する学び」

遂に「総合的な探究の時間」がスタート 3年間の繰り返しでステップアップ

活水高等学校は令和3年4月、「総合的な探究の時間」として「活ける水キャリアデザインプログラム」を開設しました。I年次のみが本格的なスタートを切る形で、まだ始まったばかりの新たなプログラムは試行錯誤の連続ですが、II年次以降の計画も大きな柱は決まっています。

以前の「総合的な学習の時間」においては、単発の「講演会」や「小論文指導」などを実施していましたが、残念ながら授業としての一貫性を維持するのが容易ではなく、私たちが目指す生徒の育成像が曖昧な状態に置かれることが課題でした。そのため、「総合的な探究の時間」を開始する前に教員間で議論を重ね、本校生に必要な資質・能力を改めて検討しました。その結果、自ら輝き、また周りを輝かせることができる資質・能力として、特に「主体性・協働能力」「課題解決能力」「創造力・発信力」「コミュニケーション能力」「メディアリテラシー」の醸成を目標に掲げ、3年間を見通すカリキュラムをデザインしました。I～III年次の3年間、「フィールドワーク」や「インタビュー」、「ディスカッション」などで学び得た内容をパワーポイントなどでまとめ、それを発表していくという流れを何度も繰り返します。現在のI年次は少しずつそのやり方を習得している段階にあります。

I年次にとって、論文を仕上げるのは容易ではありません。そのため、項目の立て方をはじめ、書く目的や方法、結果、また考察や今後の課題、そして参考文献というように、論文を仕上げるための簡単なマニュアルを配布して説明した上で授業を進めました。生徒たちは私たち教員側が想像していた以上に積極的に取り組む姿勢を示し、実際しっかりとした形にまとめる力を備えていました。発表内容や制作物のクオリティを追

求するというよりも、むしろどのような点に注意して進めるのが効果的なのかなど、探究活動におけるプロセスの部分を学ぶことに重点を置いています。生徒にとっても初めての試みですから、端緒の手がかりとして、探究活動がどのようなものなのかを理解することを目標としています。

先輩女子大学生から直接のアドバイス 活水ならではの「高大協働」が実現

活水高校ならではの大きな魅力の一つは、活水女子大学との継続的な連携でしょう。同じ学校法人内の女子大学のため連携が取りやすく、双方とも長崎市内に所在していることから往来にも便利です。

例えば、令和3年9月には新たな取り組みとして教職志望の大学3・4年次生との「学びの協働プログラム」が始まりました。高校生4人のグループに大学生が1～2人参加し、合計5～6人のチームとなって活動を進めています。大学生の授業参加を得て、一つのグループに対して教員もしくは大学生が一人は関わる形を作ることができるため、本格的に話し合える環境を実現できています。大学生は毎時間参加することこそできないものの、同じ班を継続的に担当しており、参加できない日には内容をレポートにまとめて話し合った内容を共有するように努めています。それを見て大学生側から何らかのアドバイスがあればフィードバックをするという仕組みです。

教職課程の講義の一環ですから、大学生・高校生が、お互いにwin-winの関係を築くことが理想で、現にできている印象があります。12月に「中間発表会」を行った時も、当日大学生は授業ではなかったのですが、担当しているチームの発表を見るために足を運び、質問やアドバイスをしてくれました。また、年齢に近い女子大学生のコメントは生徒たち



にとって非常に刺激的なようで、熱心に話を聞いていました。

女性社会人が多様に活躍する地元企業 自分が望む将来を具体的にイメージ

II年次には長崎県の「男女参画・女性活躍推進室」とタイアップした授業を予定しています。女性が現に活躍している県内企業に勤める社会人を招き、パネルディスカッションなどを実施する計画です。

実は、このような授業は令和3年度にも先行実施しており、サッカークラブや新聞社、ガス会社で活躍する女性のみなさんとディスカッションする機会を設け、さらに希望者に対して実際の現場を訪問させていただきました。夏季休暇中のことでしたが、全学年から希望者を募り、15名ほどの生徒が参加しました。生徒に比較的年齢層の近い20代～30代前半の方々から、高校時代の話や大学で何を学んだのか、なぜ地元・長崎県に就職をしたのかなど、実際にその方の経験を聞くことができました。直接の面談形式だったためか、生徒にとっては良い刺激となり、直後に進路を変更した生徒もいたほどです。生徒にとってこの活動が大学選びや学部・学科選びにつながり、将来のことを考える重要な機会となったようです。

令和4年度はこの取り組みをさらに発展させ、より多くの社会人・企業人のみなさんを招いてパネルディスカッションを行う計画を立てています。パネルディスカッションや企業訪問を実践した上で生徒一人ひとりが課題を見つけ、探究活動に取り組みます。



探究

3年間の積み重ねを意識し、着実にステップアップしていくプログラム

活水高校では、3年間にわたる「総合的な探究の時間」を、一貫した流れの中で行います。I年次では、自分と身近な他者を知り、II年次では地域と世界を知り、そして、III年次はそれまでの2年間で学んだことを活かし、いかに社会に貢献していくのかということについて考えていきます。

にまとめ、発表までしっかりと行うというのが想定しているストーリーラインです。この流れと活動を繰り返すことによって、背景や考え方が異なるさまざまな人と円滑に話をする事ができるコミュニケーション能力をはじめ、グループで話し合いながら取り組む活動を通して主体性・協働性を育てていきます。また、それと同時に、自ら課題を見つけて解決策を探る課題解決能力、自分の仮説を下支えする情報



を集めるためのメディアリテラシー、アイデアを出してレポートを作成し発表するための創造力・発信力を3年間かけてじっくりと醸成していきます。

I年次 自分を知る 仲間を知る ~自分の特性を知って、私の生き方を考える~

I年次は「探究学習」の重要性を押し、その具体的な方法とアプローチ手法を知ることからスタートします。一番最初に着手するのは、自分自身を見つめ「マインドマップ」を書くことです。作成したものは作品として掲示し、生徒同士による相互評価を行いました。

それを受けて、他者に対する理解を深めることを目的とする同級生へのインタビューを実践します。入学

直後ということもあって初対面となる相手も多く、可能な限りあえて出身中学校が異なる生徒同士でペアを組むように工夫しました。また、すぐにインタビューをするのではなく、事前にどのような質問をするのか、計画を立ててから実施しています。インタビュー後はヒアリング内容をB4判用紙一枚にまとめ、発表を行いました。

この授業を通して、「総合的な探究の時間」で行う「計画」「探究」「まとめ」の流れをつかみ、その後の授業

に対するイメージが持てるようになりました。4~6月という年度のはじめに自分自身や同級生に関する理解を深め、さまざまな同級生の人物像を知ることにつながったためなのでしょう、例年に比べクラスの雰囲気良くまとまり、学級運営がスムーズに進んでいます。

6月からは「聞き書き作品」の作成に取りかかりました。事前の準備として国語科の教員が聞き書き作品について解説し、他校で過去に作成された実際の作品をサンプルとして読んでから、質問の方法やインタビューの形式を学び、まとめ方についても指導をしています。

そして、取材の計画の立案と練習を経て、実際のインタビューを断行しました。生徒は所持しているタブレットを使って録音をし、Wordで内容をまとめ、作成後はグループ内で発表に臨みました。

インタビューの対象には、同居する家族や親戚など、身近で話を聞きやすい人を選びました。その職業を選んだ理由やきっかけ、魅力ややりがい、苦労など、仕事に関するアレコレをインタビューすることで、生徒たちが職業について幅広く興味を持てるように導いています。

2学期からは、それまでに身につけた探究学習の手法を活用して地域の課題に取り組んでいます。まずは地域社会を支えている企業の代表取締役社長や経営者の方などに講演をお願いし、それから地域に目を向け

大学生も一緒に興味津々!! 楽しく探究学習



マインドマップ

I年次のはじめに取り組んだ課題。マインドマップとして書き出すことで自らに対する理解を深めました。

保護者や親戚の方々と、身近な働く人にインタビュー。タブレットを使用してレポートをまとめています。

「身近な働く人」に学ぶ

どのような質問をするのか、インタビューの内容は、生徒自身が計画を立てています。

同級生インタビュー

て長崎に関する問題について考えていくように促しました。

地元・長崎が抱える課題について「観光」「食」「医療」などいくつかのテーマを提示し、生徒がその中から興味のある内容を選び、同じテーマを選んだ生徒同士でグループを組むルールです。従って、課題はグループ単位に設定されますが、その際には教員も十分に相談するように提案しました。例えば「安全・安心な長崎を作る」ことが課題として示されている時、仮にそのままではテーマが多面的かつ幅広過ぎて何から手をつけるべきか混乱しかねません。そうした状況に陥ることを回避するために、例えば、「大雨や土砂災害に強い長崎を作る」というように、課題の幅を少しだけ限定的に深め、その方向性を絞ることで、動きやすいように指導しました。

12月下旬には、その時点までに調べたことを文章にまとめます。活動や学習の背景や目的、方法、また考察を論文形式でまとめ、中間報告として発表しました。論文は、A4判用紙



二枚程度で作成していますが、中には文字だけで発表スライドを作る生徒もいるため、見出しをつけたり、イラストやグラフを入れてみるように促したりしました。

この中間報告の内容を見直し、年度末には一年間の総まとめとなる最後の発表会を行いました。総数にして28のグループがあるため、これを4ブロックに分けて予選会を行い、その上位2グループ、合計8グループが最後のプレゼンテーション大会に出場しました。

II年次 地域を知る 世界を知る ~より広い視野から、自分の生き方を考える~

II年次からは、I年次に身につけた手法を活かし、より大きな発展が

展望できるような計画を立てています。I年次においては、タブレットを使用した情報検索や、図書館を活用した文献調査、また校内におけるアンケートが主な探究活動の手段でしたが、2年次になるとフィールドワークをしたり、地元の企業に訪問したりするなど、外の世界や地域社会にも活動の範囲を広げていく予定です。また、長崎県の男女参画・女性活躍推進室と連携したプログラムも企画中で、令和3年度も実施した取り組みに加えて企業訪問の選択肢を増やすなど、さらにパワーアップさせ、この活動を4月から12月まで行っていく計画です。

III年次 わたし、輝く。ともに、輝く。 ~よりよい社会の実現にどのように貢献するか考える~

III年次には生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けて、I・II年次で学んだことを具体化・個別化し、個別生徒がテーマを設定して個人研究を展開し深めていく予定です。

*活水高校では、今後、目前に迫った令和4年4月以降、I年次に加えて、II年次・III年次とも、より充実した「探究活動・学習」を推進していく計画が策定されている。

ズームアップ ZOOM UP 高校×大学連携

お姉さん 大学生たち

活水女子大学関係学科との協働企画

活水女子大学と連携



同じ法人内のグループ校である活水女子大学と連携する学びの協働プログラムは、活水高校の「総合的な探究の時間」における大きな特徴を形づくっています。教職課程科目を履修している大学3・4年次女子学生が「学校訪問実習」として参加。活水高校普通科のI年次生徒120名に対し、大学生は約40名。



年間で90分授業15コマ分を活動にあてることができるように設計されています。女子大学生は各グループのファシリテーター(進行役)を務め、議論をスムーズに進めたり、生徒たちにアドバイスをしたりします。この学びの協働プログラムはI・II年次の2年間を通して実施される予定です。

*1 マインドマップ 「探究学習」における「課題の設定」など、自分の興味や関心を確かめる際に活用されるツール(→本

誌18ページ参照)。自分のことを客観視したり、将来やキャリアのことを冷静に考えたりすることに有効なアプローチとされている。

*2 活水女子大学 自立した女性となるための教育を目標に141年の歴史を刻む女子総合大学。「活きた水を自分だけの

ものとせず「隣人と分かち合う」というキリスト教の精神が教育のベース。観光名所として名高いオランダ坂の上に位置する伝統校。

*3 長崎が抱える課題 国際色豊かな文化(和・華・蘭)や風光明媚な景観や自然など、多様な魅力を持つ土地柄ゆえの課題が少な

いとの指摘がある。「急激な人口減少」「観光産業の活性化」「世界遺産に相応しい景観形成」等で、「魅力の宝庫」だからこその期待は大きい。

*4 長崎県の男女参画・女性活躍推進室 基本目標として「あらゆる分野における女性の活躍」「安全・安心な暮らしの実現」「男女共同参画

社会の実現に向けた基盤の整備」などを掲げる「第3次長崎県男女共同参画基本計画」における多様な取り組みの推進を主導する。